

1. 播種前～播種期の管理作業

1) 適期播種等 ～播種した時期が、出芽・生育・収量を左右します！～ ↳ポイント 播種期に合わせた作業計画を立てましょう！

(参考) 播種期別の畦間・株間・播種量の目安

播種期	畦幅 (cm)	株間 (cm)	播種量 (kg/10a)
7月上～中旬※適期!	70	21～13	4～7
7月下旬		13	7

- 大豆の播種期は、梅雨前線により降雨が連続する時期と重なります。播種期前後の気象情報に注意し、効率的に播種作業を行うことが重要です。
- 降雨による播き遅れや出芽不良による播き直しに備え、準備する種子量には余裕を持たせておきましょう。
- 播き幅をトラクターや乗用管理機の車輪の幅に合わせておくと、栽培期間中の管理作業を行う時に大豆を傷めにくくなります。

2) 圃場の準備作業 ～大豆の生育しやすい圃場にしましょう！～ ↳ポイント

(1) 土壌改良

①有機物施用 ※地力の維持が安定した収量・品質を支えます！

資材名	施用量/10a	施用時期、方法
牛糞堆肥	1～1.5 t	耕起前、圃場全面に均一散布

- 圃場に雑草を持ち込まないように、有機物は熟成の進んだものを施用しましょう。

②酸度矯正 ※収量・品質が伸びない圃場はまずpHの分析を！

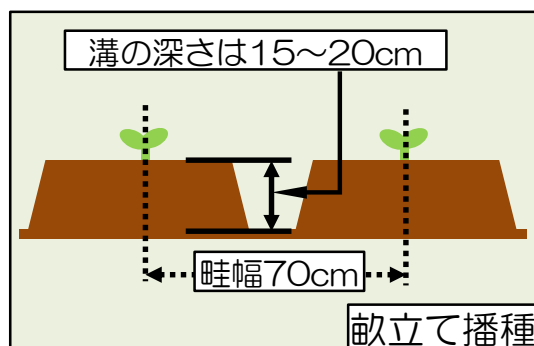
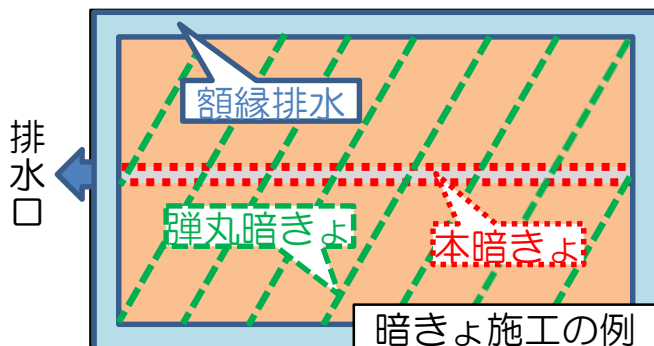
(参考) pH6.2を目標とした土壌改良材の施用量 (kg/10a)

資材名	圃場の土壌pH			
	<4.0	<4.5	<5.0	<5.5
ミネラルG・ケイカル	410	300	180	85
炭カル	350	250	150	70
苦土石灰	335	240	145	70

注) 粘質～ 壤質土壌の場合、一度の施用は300kg/10aまで

- 転作水田の土壌pHは5.5以下の場合が多く、連作により年々低下します。
- 土壌改良材は肥料と異なりすぐにはなりません。土壌pHに基づく施用量が300kg/10aを超える場合は、2～3年に分けて耕起作業と同時にすぎ込んでください。

(2) 排水対策 ※暗きよ+畝立て播種で、乾きやすい圃場にしましょう！



注意☞播種前の耕起作業後に降雨があると圃場が水を含み、播種作業が遅れてしまいます。耕起は播種直前または同時に行いましょう。

3) 播種作業 ～適切な播種深度と適期の除草剤散布で順調な初期生育を～ ポイント

(1) 種子消毒 ※播種後の種子を保護する重要な作業です！

(参考) 種子消毒に用いる薬剤

種類	薬剤名	使用量/種子1kg
殺菌剤	キヒゲンR 2フロアブル	20ml
殺虫・殺菌剤	クルーザーMAXX	8ml

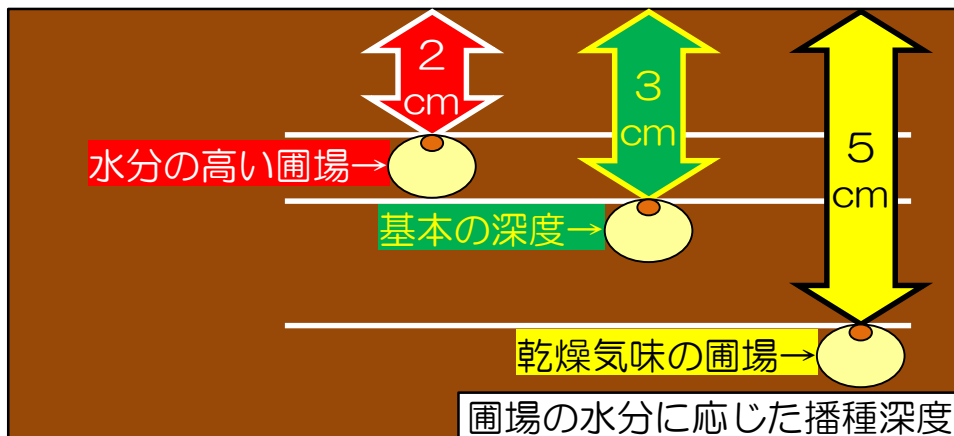
- 出芽期に大豆を食害される圃場では、殺虫・殺菌剤を使用してください。

(2) 施肥量 ※圃場の地力(収量)、播種時期に応じ適正に

肥料名(N-P-K %)	施用量/10a
BB806(8-20-16)	20~40kg
豆化成(3-10-10)	100kg
PK化成(0-20-20)	20kg

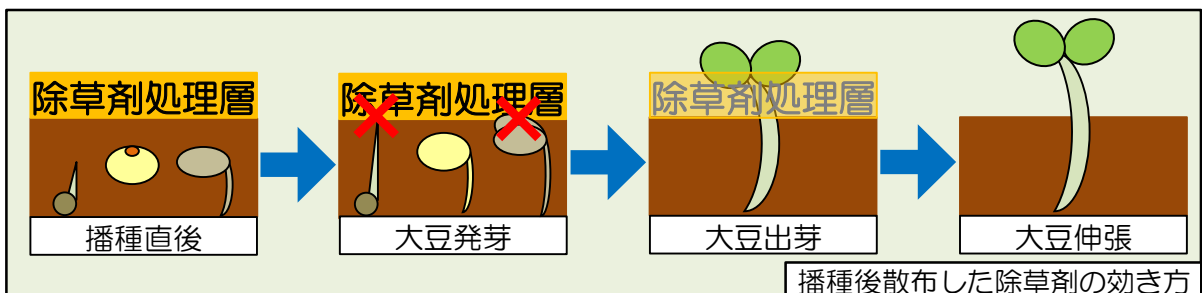
- 窒素の多い肥料は、連作等により収量が低くなった圃場に施用しましょう。

(3) 播種深度 ※圃場の湿り具合に合わせた深さ調節を！



- 播種深度は作土の固さや湿り具合に合わせて調整しましょう。また作業中にも適正な深度となっているか確認することも重要です。

(4) 除草剤散布 ※播種と除草剤散布は2作業で1セットです！



(参考) 播種直後に散布する除草剤

※ラクサー粒剤・乳剤がおすすめです！

剤型	薬剤名	使用時期	散布時の注意		対象雑草
			薬量/10a	希釈水量/10a	
粒剤	ラクサー粒剤	播種後出芽前	4~8kg	—	
	クリアターン細粒剤F	播種直後	4~5kg	—	イネ科
液剤	ラクサー乳剤	播種後出芽前	400~800ml	100L	
	クリアターン乳剤	播種直後	500~800ml	70~100L	

- 圃場の雑草は、大豆の播種前から芽を出しています。大豆播種後の除草剤散布が遅くなるほど圃場内で雑草が拡大しやすくなります。
- 播種作業と除草剤散布は間隔を置かず連続で行い、雑草の拡大を押さえましょう！

注意☞雑草の多い圃場では、生育期の除草剤と合わせた散布計画を立てましょう。